

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 037	提案機関名 神奈川県 畜産課
要望問題名	飼料用米等のひこばえ再生2期作の施肥と収量の関連
要望問題の内容	【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 ・温暖化により、西日本では、ひこばえを再生させ2期作を可能とする研究が進められている。 ・飼料用米には、極多肥栽培で収量が増加する品種もあるが、関東地域でひこばえ再生2期作における施肥体系は不明。 そこで、本県におけるひこばえ再生2期作において、効果的な堆肥の投入と収量の関係について明らかにする。
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	農業技術センター 畜産技術センター	担当部所	生産技術部 企画指導部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	飼料用米については、当所の所管外ですので実施不可とします。 なお、農研機構九州沖縄農業研究センターが行った試験では、4月中旬に田植え、8月に1回目の収穫と11月に2回目の収穫を行う体系ですが、県内では上記の収穫時期に合わせた水の供給ができないため、現地導入は難しいと考えます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	Nakano, H., Tanaka, R., Wada, H., Okami, M., Nakagomi, K., & Hakata, M. (2020). Breaking rice yield barrier with the ratooning method under changing climatic conditions: A paradigm shift in rice cropping systems in southwestern Japan. <i>Agronomy Journal</i> , DOI: 10.1002/agj2.20309.		